

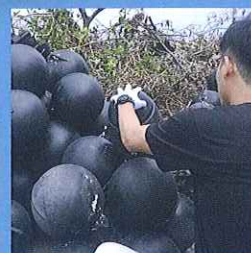
漂着ごみの現状

これまで漂着ごみは、地元の自治体が産業廃棄物処理施設で、焼却されるか、埋立処分されるしかありませんでした。有効活用されることはほとんどなく、処理や運搬に費用がかかっています。

再資源化のポイントは「選別」と「破碎」

選別

プラスチックの種類ごとに分ければ、リサイクルできます。多く集まる「ブイ」や「牡蠣養殖パイプ」など、用途で分けることで、樹脂別のプラスチックを選ぶことができます。



破碎

回収したプラスチックは、破碎します。破碎することで、かさを8分の1に減らすことができます。現地で破碎することで、運搬する量を増やし、運搬単価を抑えることができます。



運搬

破碎したプラスチックは、フレコンバッグ1袋に約500kg、10トントラックでは約20袋運搬できます。



製品化

リサイクル企業で再破碎・洗浄・乾燥させ、フレークやペレットという形に成形します。ポリエチレン（PE）、ポリプロピレン（PP）の再生原料として販売できます。



日本中の海洋プラスチックを資源化したい

NPO 法人木野環境は海洋プラスチックを資源化するしくみ作りを支援します。回収した海ごみを選別し、10t程破碎するとリサイクルの道が拓けます。再生原料を使って、自治体の指定袋や企業活動等でお使いいただける用途も提案させていただきます。

お問い合わせ：NPO 法人木野環境
〒612-8133 京都市伏見区向島鷹場町62
Tel 075-708-8061
kino@kino-eco.or.jp
助成：日本財団



海洋プラスチックの資源化について詳しく知りたい方はこちら



プロジェクトの経緯やこれまでの取り組みについて紹介しています。



一方、漂着ごみは、海を渡ってやってきます。

OCEAN



海洋プラスチック再利用商品カタログ

漂着する

海洋プラスチックの 再資源化→利用を 広げよう！



NPO 木野環境

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION 海と日本 PROJECT